

2026 年4－6月期GDP1次速報後のGDPギャップの推計結果について

1. 2026 年4－6月期のGDP1次速報を反映したGDPギャップ(注)の推計結果は+0.7%となった(図1～2、表1)。

(注) GDPギャップ＝(実際のGDP－潜在GDP)/潜在GDP。この推計にあたっては、潜在GDPを「経済の過去のトレンドからみて平均的な水準で生産要素を投入した時に実現可能なGDP」と定義している。GDPギャップの大きさについては、前提となるデータや推計方法によって結果が大きく異なるため、相当の幅をもってみる必要がある。

図1 GDPギャップの推移

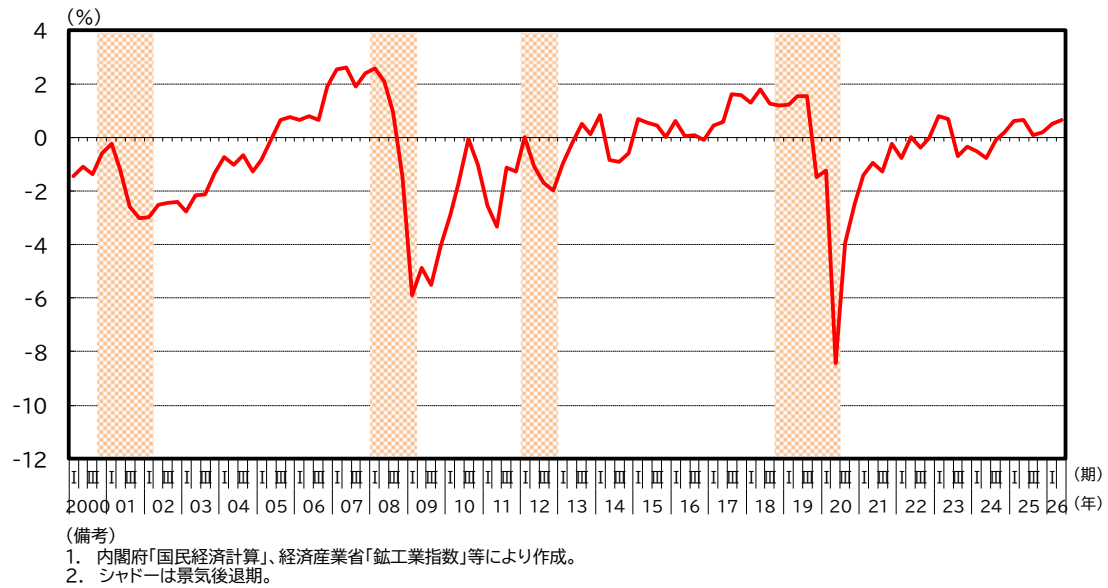


図2 GDPギャップの新旧比較

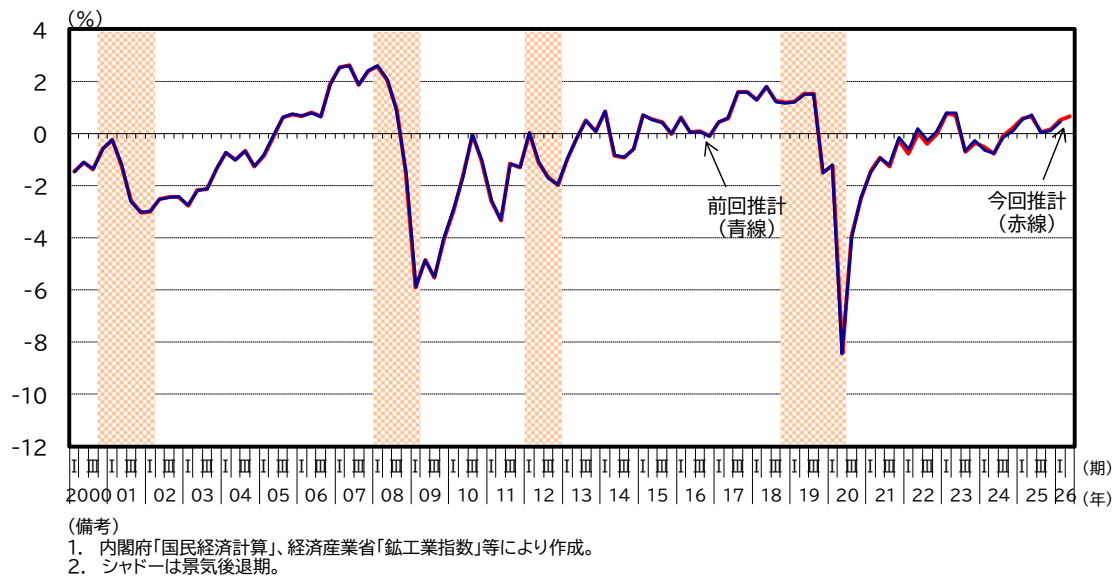


表1 GDPギャップの推移

	2019				2020				2021				2022			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
26年4～6月期1次QE後	1.2	1.5	1.5	▲1.5	▲1.2	▲8.4	▲3.9	▲2.5	▲1.4	▲0.9	▲1.3	▲0.2	▲0.8	0.0	▲0.4	▲0.0
26年1～3月期2次QE後	1.2	1.5	1.5	▲1.5	▲1.2	▲8.4	▲4.0	▲2.5	▲1.5	▲1.0	▲1.2	▲0.2	▲0.6	0.2	▲0.3	0.1

	2023				2024				2025				2026			
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
26年4～6月期1次QE後	0.8	0.7	▲0.7	▲0.3	▲0.5	▲0.8	▲0.1	0.2	0.6	0.6	0.1	0.2	0.5	0.7		
26年1～3月期2次QE後	0.8	0.8	▲0.7	▲0.2	▲0.6	▲0.7	▲0.1	0.1	0.5	0.7	0.0	0.1	0.5			

担当：参事官（経済財政分析－総括担当）付 駿河 里帆、関原 航大
 直通:03-6257-1572